90　モーイ親方（へ）

（打たぬ太鼓・灰縄）

モーイ親方かなんかわからんけど、薩摩から沖縄に難題持たれてきたからね。こっちのこの親は、村の役人だったか何か知らないけどね、この難題持たれたからね、あんまり頭を抱えていたから、

「何でお父さん、こんなに悩んでいるの」と聞いたからね、子どもが。で、

「ひとりでに鳴る太鼓を作ってきなさい」と言ってた。

「ひとりでに鳴る太鼓があるかねえ」と、親は悩んだから、

「それは簡単ですよ、お父さん」

「どんなんして作るの」と言うたからね、

「かなぶんぶん、あれをたくさん集めてからね、これ入れたら、あれがぶんぶんぶんて飛ぶでしょう。これで鳴るから。これがひとりでに鳴るから」と。作ったからね、これをたくさん入れたもんだから、自分で飛ぶから糸で鳴るさね。これ作ったから。

もう一つはね、灰の縄を作ってきなさいと。これもう親は解けなかったから、

「これは心配するんじゃないよ、お父さん。私は考えているから。どういうことですか」と言って、

「作られとる縄を灰に焼いて、灰に焼いたらすぐそのまま閉じなさい」と言った。灰のまま縄綯っているさね。

字糸洲　中村カツ